

すべての原発を止めよう！

対政府に対して「脱原発」署名を上げよう

脱原発・エネルギー政策大転換を！ 京都議定書達成を！

【 政府にする要求 6項目 】

- 1 原発の運転を停止し、安全基準・耐震指針をやり直し、危険な原発は廃炉にしてください。
- 2 東電と国のフクシマ事故責任を明らかにし、賠償を国が責任を持って東電にやらせてください。
- 3 発電と送配電を分離し、送配電部門を国が責任を持って管理してください。
- 4 再生可能エネルギー（太陽光、風力、小規模水力、バイオマス、地熱など）の大幅拡大へ
- 5 温室効果ガス削減、京都議定書目標（2012年までに1990年から6%削減）の達成へ
- 6 原発輸出をやめてください。脱原発・再生可能エネルギーで世界をリードしてください。

フクシマ事故後、原発の安全性を再度確認し、原発推進をスムーズに進めるため、国の原子力安全委員会が、動き始めています。

来年3月までに問題点を整理する2つの専門部会が始動しています。

これらの動きに注目しながら、問題点を整理していきましょう。

脱原発の前進のため、国への関いを準備していきましょう。



フクシマ原発事故は収束していません。事故原因も明らかにならないまま、関電の原発は安全ですとは誰も言えません。それでも原発の再稼働を狙う 関西電力

原発を停止しても 電力が不足するという事は、ありえません。

- ・ 7月28日に関電に提出しました。「7月1日から始まった貴社の15%程度の節電要請」に関する公開質問書に関西電力に提出しました。
- ・ 関西電力に、真摯なる回答を迫ります。

交渉日は8月25日（木）3時から 関電本社

深刻な汚染状況が 次々と明らかに

フクシマ原発事故は、未だに安定的な冷却システムを回復できないままです。

大きな余震が起これば、原子炉の大破壊の危険性は去っていません。

フクシマ事故では、チェルノブイリ原発事故の20%（セシウム換算で、ヒロシマ原爆の約120発分）にも相

当する大量の放射能が放出され、大地を、海を、川を汚染しました。

事故被災地では深刻な放射能汚染が続いています。

福島県は県全体として放射線管理区域相当或いはそれ以上の汚染地域となり、地域によってはチェルノブイリの高汚染地と同じレベルの汚染も生じました。

福島県外の茨城、千葉、東京、岩手などでも汚染のホットスポットが発見されています。

また農畜産物、水産物などを通じて、放射能汚染は全国に広まっています。



(朝日新聞より)

放射能汚染を取り除く除染作業では、水で洗ったり、土をはつるなどの地道な方法しかありません。これから何年、何十年と除染を続けないといけないのか、見通しすら立ちません。

原子力を止めても、汚染地を回復させる技術を見いだせません。

汚染されたものを人目につかない場所に移動させるだけで、汚染されたものを無害化する技術などないのです。

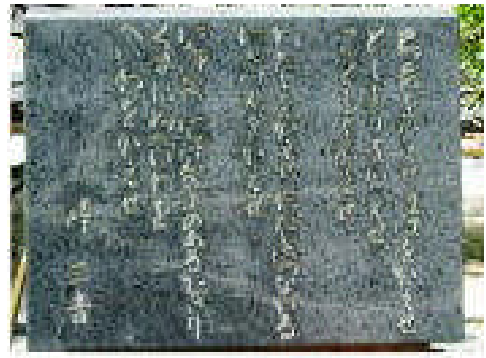
原子力を推進してきた日本が、脱原発へと舵を取るのか、全世界から注視されているのです。



(汚染の深刻さがじわじわと)

今までは、原子力発電は、安いと宣伝していましたが、この事故を契機に 結局は原発の発電コストは高くつくことが明らかとなりました。

破損した核燃料、溶融核燃料はもとより、がれきの山、高濃度汚染の汚泥など持って行き場がないのです。



(広島平和公園内「峠三吉」石碑)

「故郷を返せ！美しい海、山、川を返せ！俺の人生を返せ！」福島現地の人々の心からの叫びです。

何もかも全て奪ってしまった福島第一原発重大事故。

今も、多くの労働者の大量被曝を伴う必死の作業が続けられています。

まだ安定して原子炉を冷やせる状態にはいたっておらず、依然として新たな重大な結果にいたる危険も否定できません。

また廃炉への道筋は見えないままです。



佐藤龍彦さん 福島県双葉郡楡葉町の自宅で被災。事故後千葉県に移住したが福島市に戻る双葉地方原発反対同盟の一員

9月10日(土)に

大阪の地で、福島現地報告をします

9月10日、11日と、福島現地から、日々、放射能と向き合う生活の中で、汚染と被曝を引き下げ、住民や労働者の健康を守るために闘っておられる佐藤さんをお招きします。3月11日以降、

一変させられた生活、過酷な避難所暮らし、帰郷の思いは募るものの帰れぬ現実など、現地での厳しい状況やその中での苦しみや怒り、脱原発や復興への思い等をお話していただけるものと思います。「核と人類は共存できない」を目指してフクシマとの連帯を強め、交流を深めたいと思います。是非多くの方の参加をお願いいたします。

ストレステストは 原発の安全基準の見直しにはならない

国は、原発の運転再開の評価として、ストレステストを実施すると打ち出してきました。このストレステストの意義については、班目(まだらめ)原子力安全委員長が7月21日の記者会見で、「原発が安全であるかどうかというのは、定期検査で技術基準に適合していれば、もうそこで安全だと、これが今までの考え方です。それに対して、ストレステストというものは、その技術基準等に比べて、更にどれだけ余裕があるか、頑健性があるかとか、そういうことまで調べているわけですから、どこかに合格点があるというものではなくて、それでよしとするかどうかというのは、むしろ行政判断になるのだ。」とっています。

つまり、今ある原発はどれも安全だが、ストレステストでは「余裕がどれだけあるか」を調べ、運転再開や継続を認めるかどうかは内閣が判断するというものなのです。原発が合格かどうかを判断するための安全基準づくりでないのです。

原発推進のための原子力安全委員会(内閣府)、原子力安全・保安院は原子力推進行政を担う経済産業省の下に置かれています。これでは原

大飯1号炉

約4か月、「調整運転」といいながら実質、営業発電。(120億円稼いだか?)

7月15日、機器トラブル、翌日、原子炉を停止
原発の安全性が問題視される中、手動停止。

関電は、猛省する姿勢すら見せない。

発の見直しなどできません。

フクシマ事故は防ぐには、設計用基準地震動や設計用津波高さを根本的に見直すことから始めるべきなのです。基準そのものを見直すかが問題なのです。

「対政府」署名を広めましょう

私たちは、原発を止めて、原発のないエネルギー政策へと転換させるため、署名活動をおこないます。地域独占の電力会社、原発の利権に群がる企業や官僚たちの原発推進のデマ宣伝を暴くためにも署名は有効であると考えます。多くの参加をお願いします。

また、「脱原発を実現し、自然エネルギー中心を求める全国署名」1000万人を目指す運動と連帯して、並行して署名活動を行います。この力で、政府に対して、要求行動も準備していきましょう。

関電の原発存続のための節電要請は、許せません

6月10日、関電は、「現在、定検中の原発が再起動できず、電力需給は極めて厳しい状況。7月以降は、需要が供給力を大幅に上回る見通し。7月1日から9月22日の平日9時から20時まで、お客さまに15%程度の節電をお願いする。」と、発表しました。そして、7月20日には、「これまでで約140万KWの需要抑制、8月の猛暑、さらに140万KWの電力不足になりかねない」と、発表しました。

私たちは、関電が言う「原発が停止だと、電力需給は極めて厳しい状況」という主張はどれも信じられない、何かを隠しているのではないかという疑念をもち、関電に質問書を提出しました。

私たちは、この質問書の回答を求める関電交渉をする予定です。決まりましたら、日時をお知らせしますので、みんなで関電交渉をしていきましょう。

(連絡先 クボ 072-939-5660)

